

2019年5月20日

東京オリンピック・パラリンピック開催に関する 千葉県民の意識調査結果（2回目）

株式会社ちばぎん総合研究所
代表取締役 水野 創

東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、オリ・パラ）の機運醸成を図るさまざまな取組みが行われている。今回、オリンピック開幕まで500日を切るなかで、3月18日に千葉県、千葉市、一宮町およびみんなで応援！千葉県経済団体協議会が主催して「あと500日！オール千葉で応援しよう！」フォーラムが開催され、「スポーツ応援チーバくん」のお披露目や使用ルールの紹介なども行われた直後のタイミングで、千葉県民のオリ・パラに対する意識を明らかにするため、アンケート調査を実施した。同調査は2018年8月にも実施しており、県民のオリ・パラに対する意識や関心の変化についても比較を行った。

なお、本調査は今後も折をみて行い、千葉県民のオリ・パラ開催に関する意識や関心に係る経年変化を継続的に発信していく方針である。

《結果要旨》

- 県内開催競技の認知度は、「サーフィン」が約7割と突出して高いが、他の競技は2割未満であり、特にパラ競技については、引き続き1割未満にとどまる。500日前イベントなどの機運盛り上げ活動実施後も、前年との対比で認知度は殆ど上がっておらず、県民へのさらなる周知・機運醸成に努める必要がある。
- 千葉市および一宮町における住民の競技開催地の認知度は5割未満で、前年比でも低下。また、住んでいる市町村がホストタウンであることを認知している住民の割合は、前年比では上昇しているが、2割に届かず引き続き低い。
- オリンピック観戦チケットの申込開始時期を知っている県民は約半数。パラリンピックについては3割未満。
- 競技観戦意向は、オリンピック競技が約4割で、前年比若干上昇。パラリンピック競技が約3割で前年比若干低下。
- オリ・パラ開催後に期待する効果では、「スポーツの振興」が4割弱と最も高く、前年比でも上昇。一方で、期待していない人も2割程度いる。
- 「スポーツ応援チーバくん」の認知度は約1割。今後県内企業や団体等にロゴマークの積極的な活用を促すとともに、『オール千葉』でスポーツを応援する機運を高めていく必要がある。

1. 調査概要

	2019年	2018年
実施時期	2019年3月19～22日	2018年8月9～16日
調査手法	インターネットを介したWEBアンケート調査	
調査対象	千葉県在住の15歳以上の男女	
サンプル数	1,000人	

回答者の県内市町村別居住地

		2019年		2018年	
		回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
開催地	千葉市	80	8.0	80	8.0
	一宮町	7	0.7	7	0.7
ホスト タウン	★銚子市	40	4.0	-	-
	市川市	40	4.0	40	4.0
	船橋市	40	4.0	40	4.0
	館山市	40	4.0	40	4.0
	松戸市	40	4.0	40	4.0
	成田市	40	4.0	40	4.0
	佐倉市	40	4.0	40	4.0
	印西市	40	4.0	40	4.0
	旭市	40	4.0	40	4.0
	市原市	40	4.0	40	4.0
	流山市	40	4.0	40	4.0
	浦安市	40	4.0	40	4.0
	山武市	40	4.0	40	4.0
	横芝光町	15	1.5	15	1.5
その他		378	37.8	418	41.8
合計		1,000	100.0	1,000	100.0

★2018年10月に台湾のホストタウンとして登録

2. 調査結果

① 県内でのオリ・パラ競技開催の認知度

千葉県においてオリ・パラ競技が開催されることに対する認知度をみると、「知っている」(80.0%)が8割、「知らない」(20.0%)が2割となった。

居住地別¹(開催地、ホストタウン、その他県内市町村)にみると、「知っている」と回答した居住地の割合は、「開催地」(92.0%)が最も高く、「その他県内」(81.2%)と続いている。

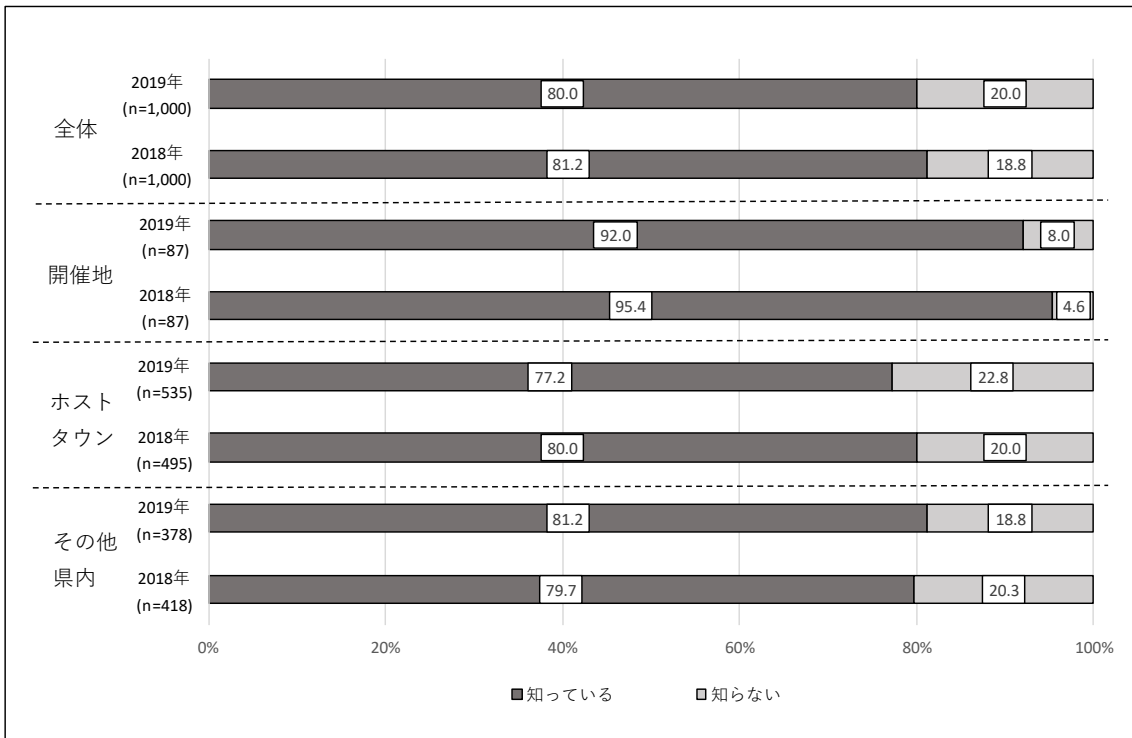
年齢別では、「60歳以上」(86.1%)が最も多く、年齢区分が高くなるほど、認知度が高い。

前年調査との比較では、認知度はほぼ同水準となった。

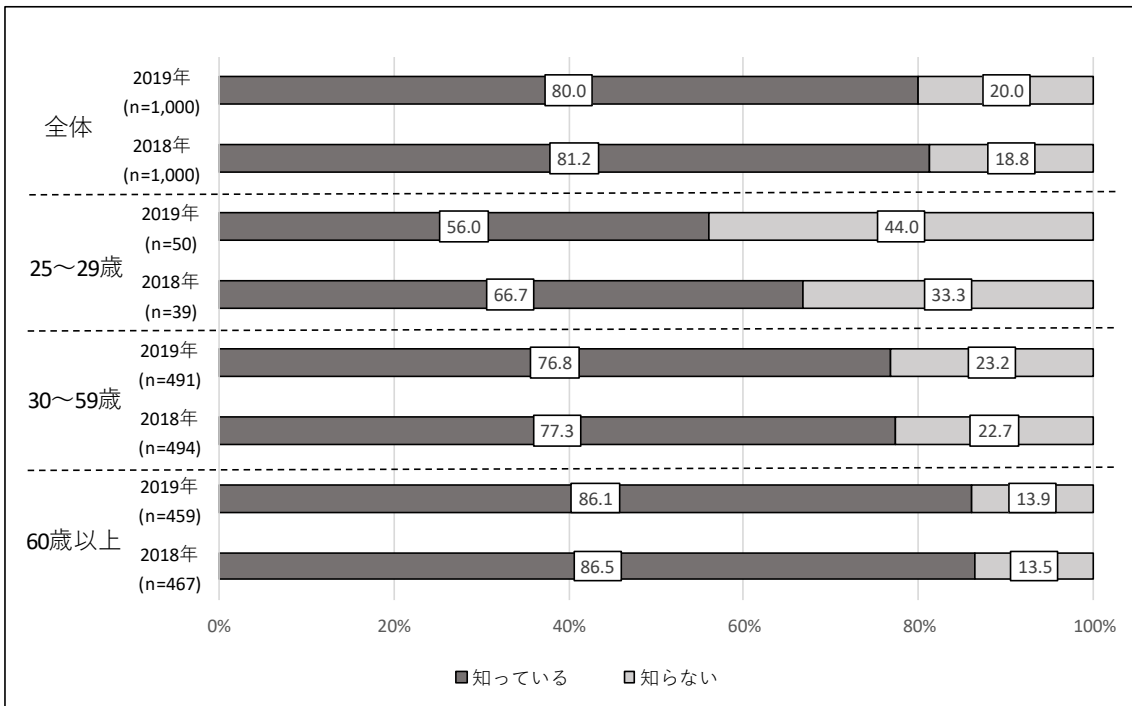
¹ 開催地(2): 千葉市、一宮町

ホストタウン(14): 銚子市、市川市、船橋市、館山市、松戸市、成田市、佐倉市、印西市、旭市、市原市、流山市、浦安市、山武市、横芝光町

図表 1 千葉県におけるオリ・パラ開催の認知度（居住地別）



図表 2 千葉県におけるオリ・パラ開催の認知度（年齢別）



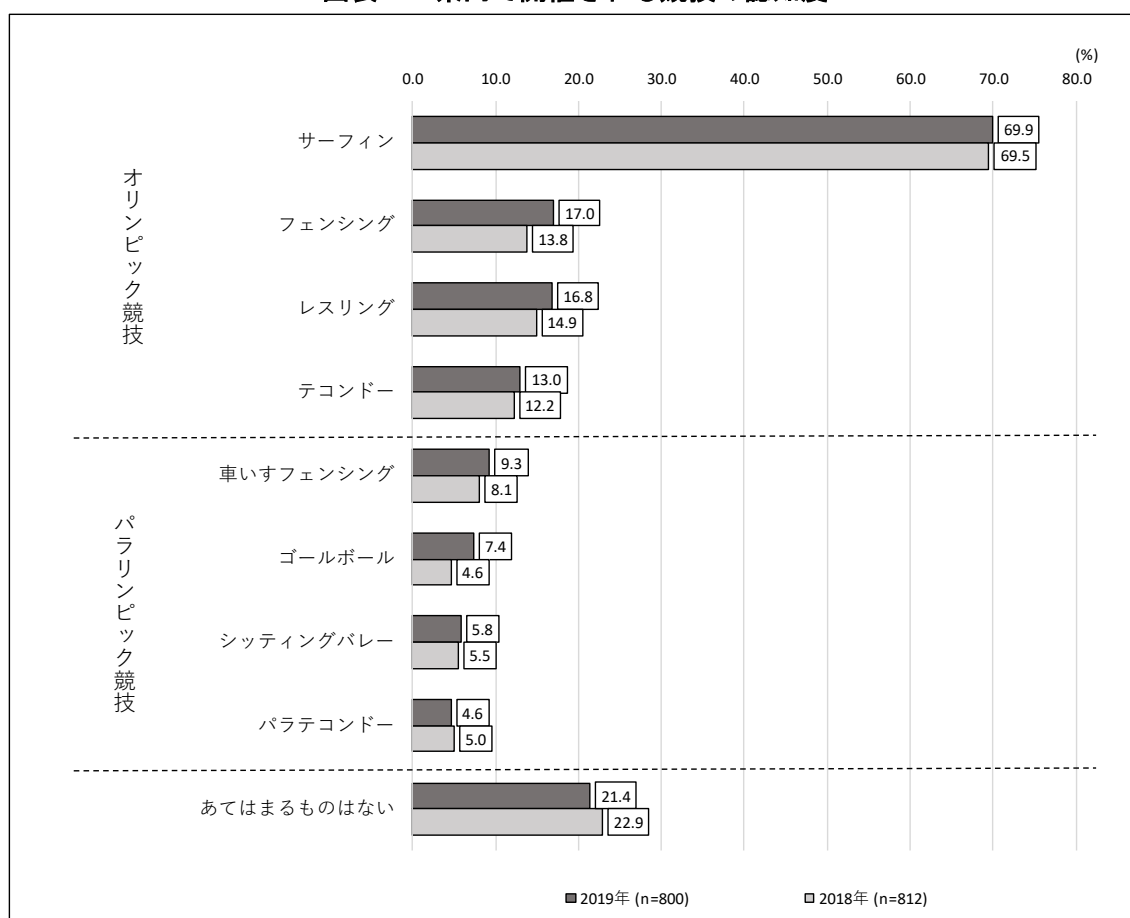
② 県内で開催される競技の認知度

県内開催を「知っている」と回答した人に対して、認識している具体的な競技について伺ったところ、オリンピック競技の認知度が2桁台であるのに対して、パラリンピック競技は1桁台にとどまった。

競技別にみると、「サーフィン」(69.9%)の認知度が突出して高かった。

前年調査との比較では、「パラテコンドー」を除き、認知度は押しなべて小幅上昇した。

図表 3 県内で開催される競技の認知度

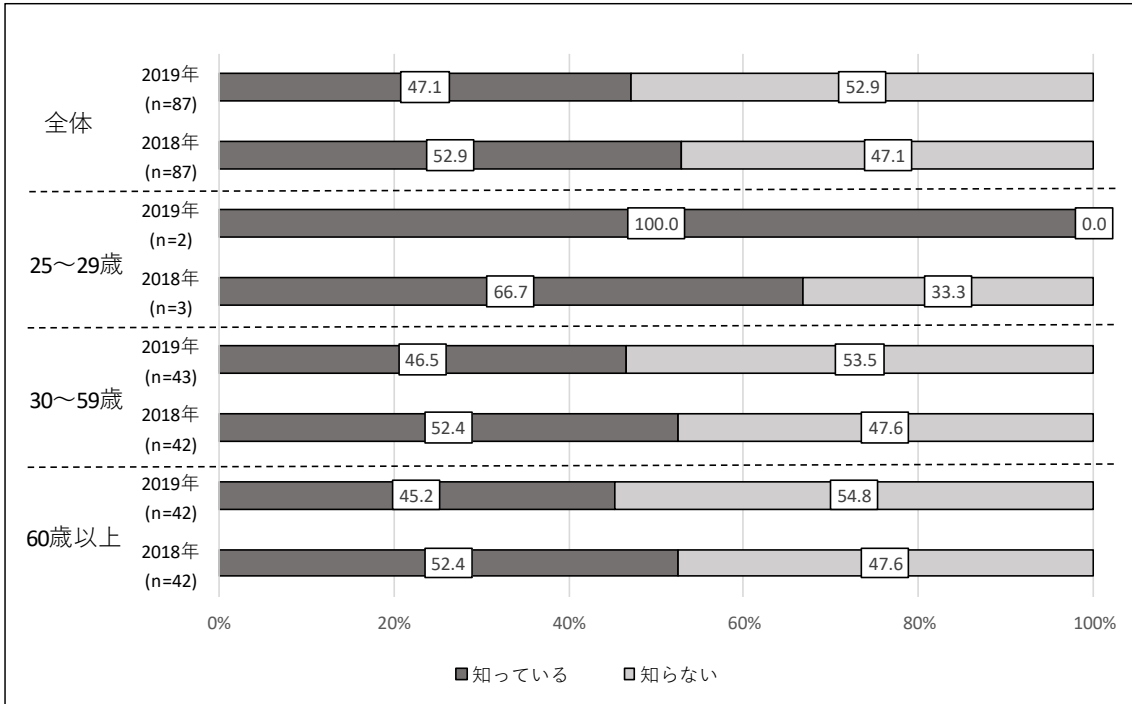


③ 開催地・ホストタウンの競技開催認知度

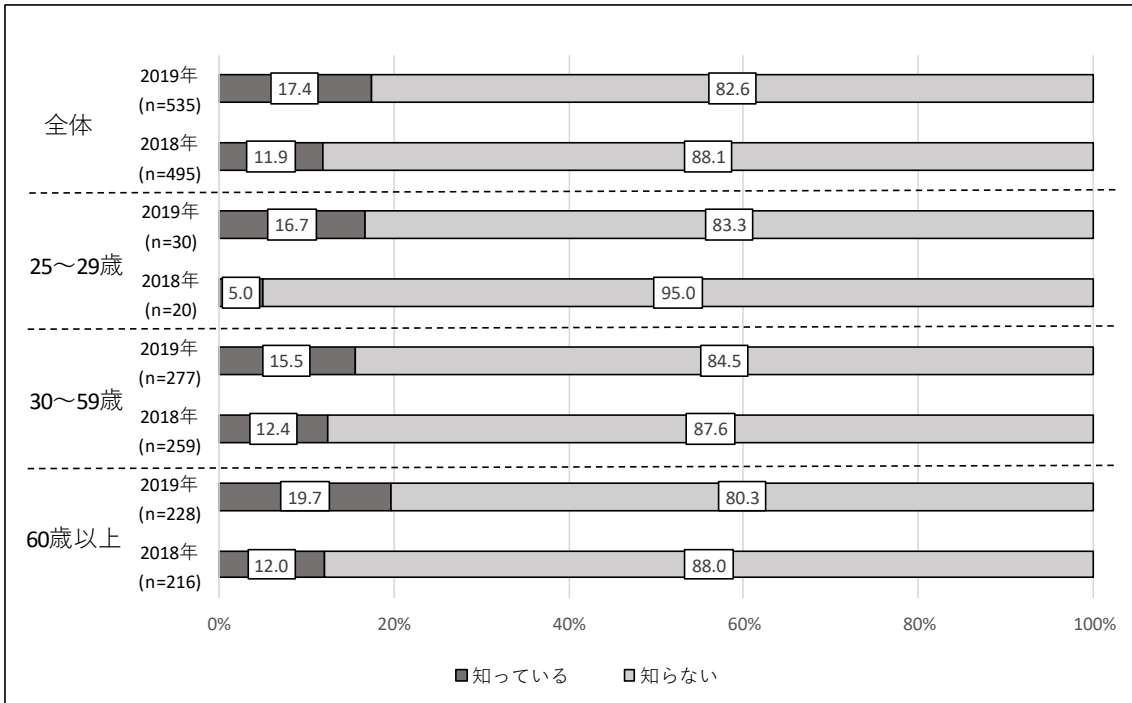
開催地（千葉市・一宮町）の住民を対象に、自らの自治体が競技開催地であることを認知しているか伺ったところ、「知っている」（47.1％）が、「知らない」（52.9％）をやや下回った。前年調査との比較では、回答数の少ない25～29歳を除き、全ての年代で認知度が前年を下回った。

一方、ホストタウン登録自治体の住民を対象に、自らの自治体がホストタウンであることを認知しているか伺ったところ、「知っている」が2割弱（17.4％）にとどまり、開催地との認知度の差は引き続き大きなものとなっている。この間、前年調査比では、全ての年代で上昇した。

図表 4 開催地の認知度（年齢別）



図表 5 ホスタウンの認知度（年齢別）



④ 観戦チケット申込・販売時期の認知度 【新設問】

オリンピックの観戦チケット²の抽選申込時期についての認知度をみると、「知っている」(46.2%)、「知らない」(53.8%) とほぼ同数となった。

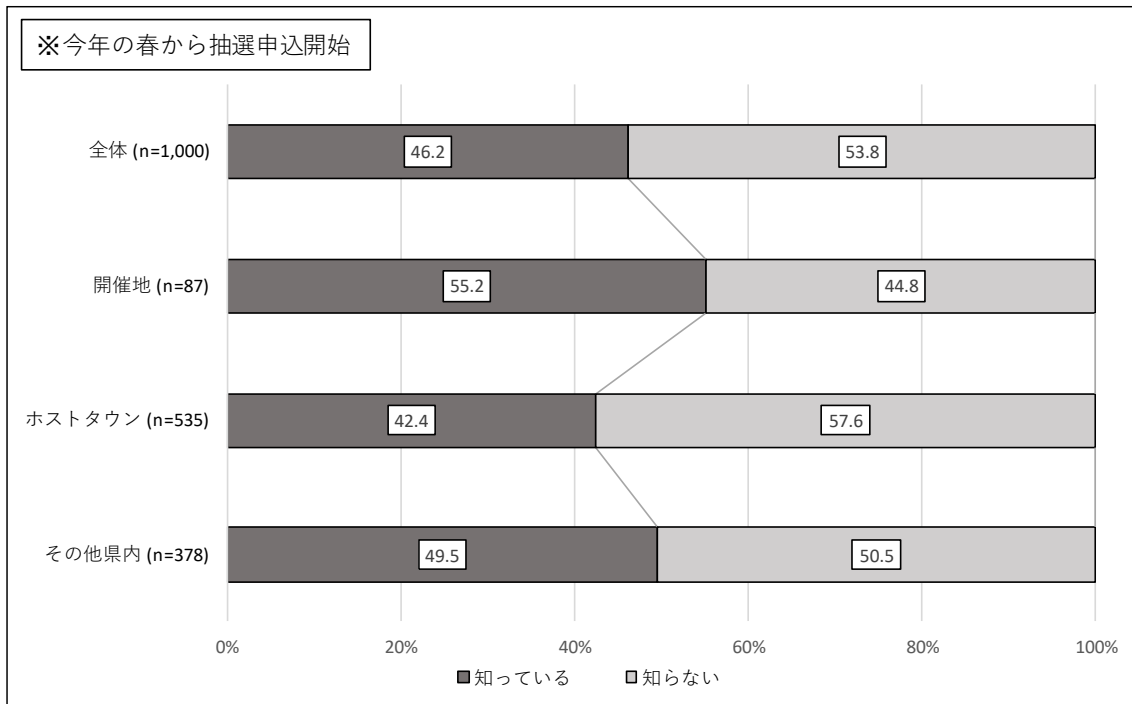
一方で、パラリンピック観戦チケット³の販売開始時期については、「知っている」の割合は3割未満(28.3%)にとどまった。

居住地別にみると、オリンピック・パラリンピックともに、ホストタウンで「知らない」の比率がやや高くなっている。

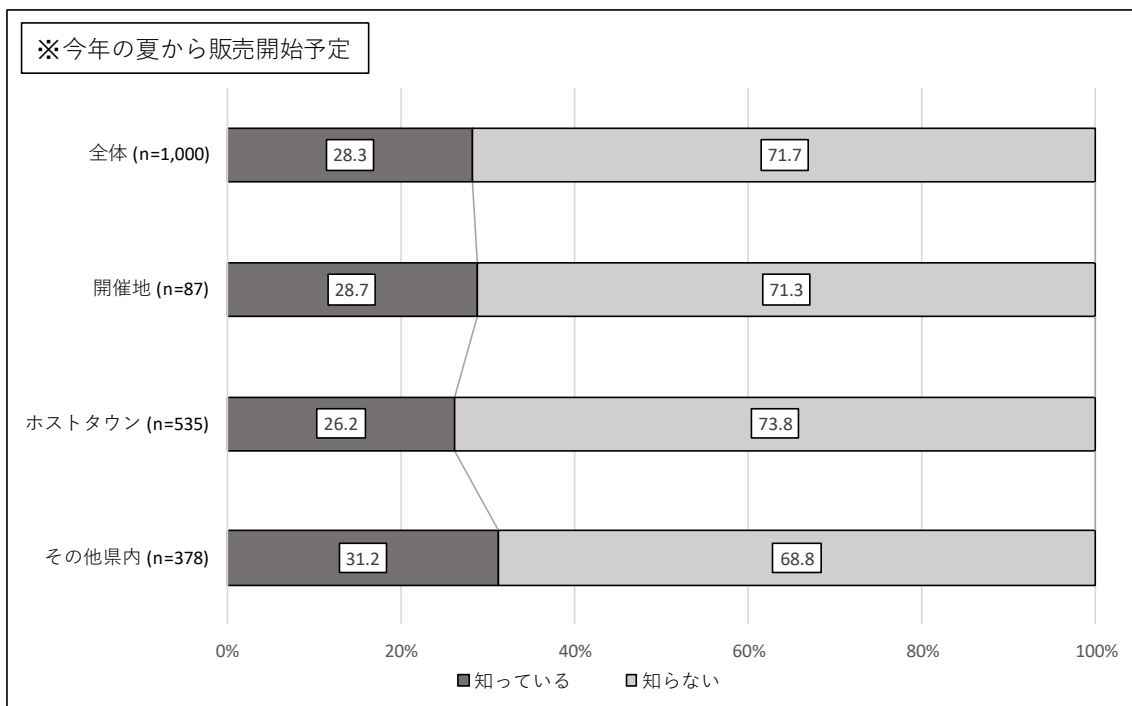
² 2019年5月9日から抽選申込開始

³ 2019年夏から申込・販売開始予定

図表 6 オリンピック観戦チケットの抽選申込開始時期の認知度（居住地別）



図表 7 パラリンピック観戦チケットの販売開始時期の認知度（居住地別）

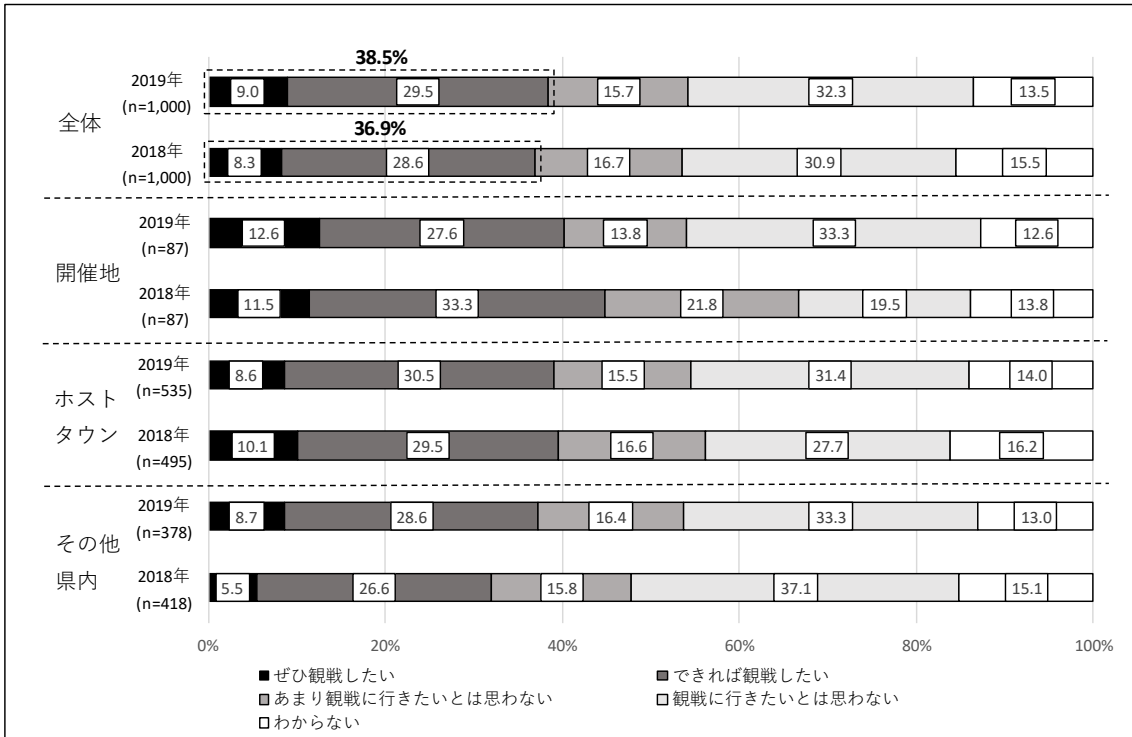


⑤ オリ・パラ競技の観戦意向

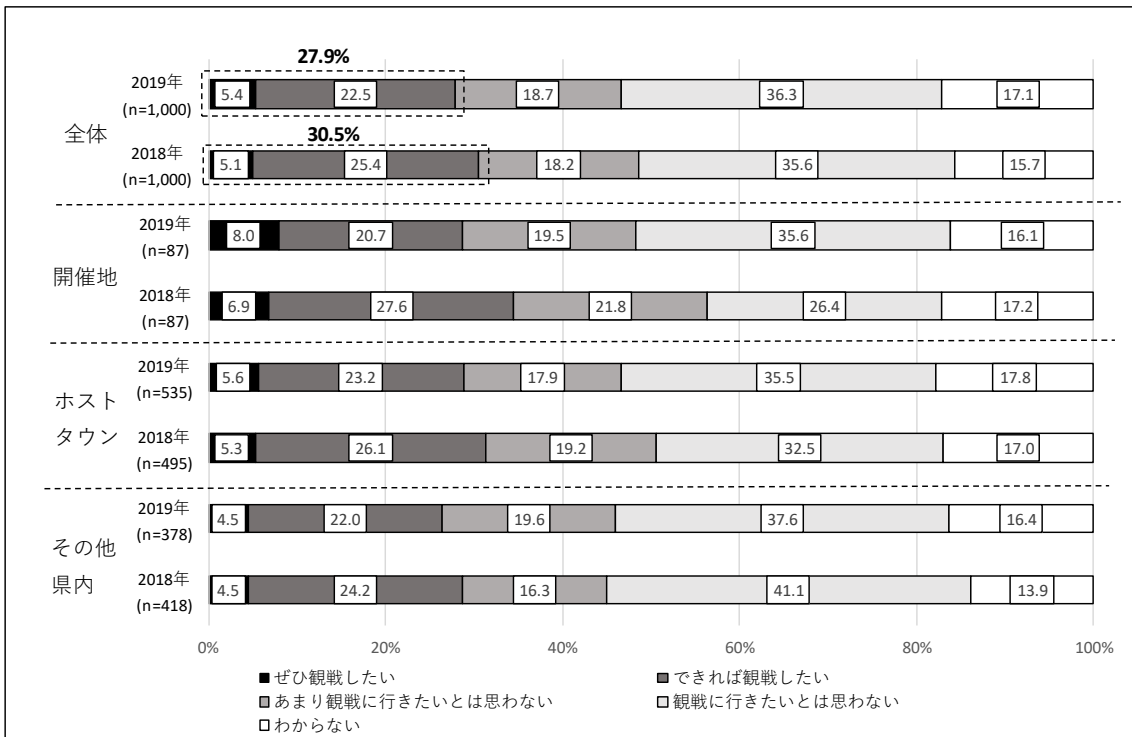
オリ・パラ開催期間中の観戦意向をみると、「観戦したい（ぜひ観戦したい＋できれば観戦したい）」と回答した割合は、オリンピック競技で約4割（9.0%＋29.5%）、パラリンピック競技で約3割（5.4%＋22.5%）となった。

前年調査との比較で、オリンピック競技で若干上昇した一方、パラリンピック競技では若干低下した。

図表 8 オリンピック競技の観戦意向



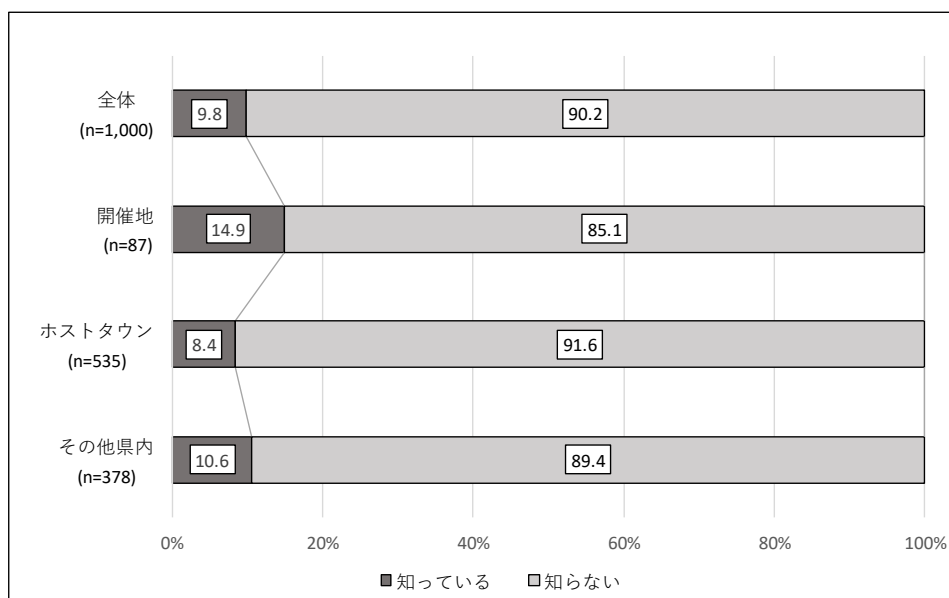
図表 9 パラリンピック競技の観戦意向



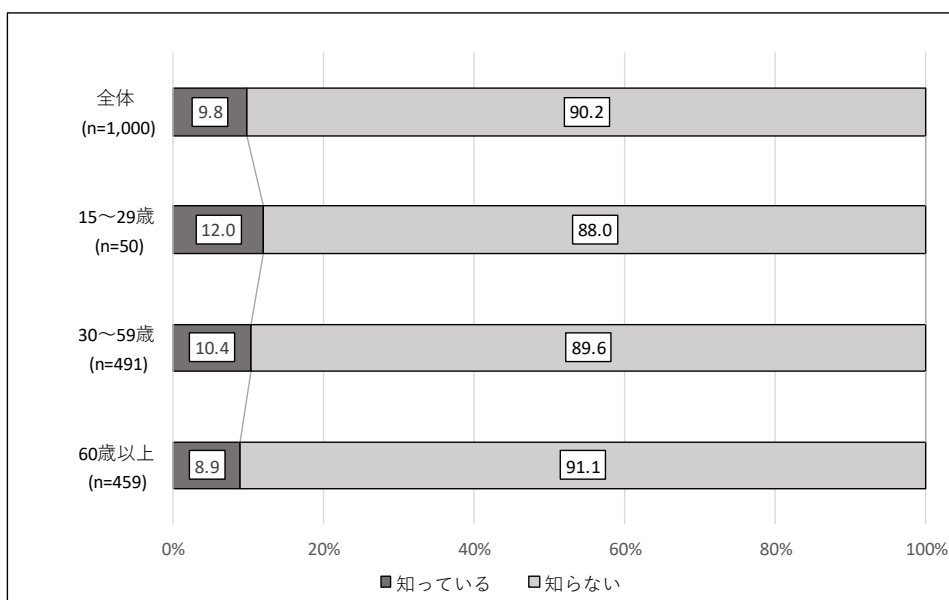
⑥ 「スポーツを応援するチーバくん」⁴の認知度【新設問】

「スポーツを応援するチーバくん」の認知度をみると、「知っている」と回答した割合は、1割未満（9.8%）にとどまった。

図表 10 「スポーツを応援するチーバくん」の認知度（居住地別）



図表 11 「スポーツを応援するチーバくん」の認知度（年齢別）



⁴ 正式名称は「スポーツ応援ロゴマーク」。千葉県がスポーツを「オール千葉」で応援する機運を一層高めるため、チーバくんをイメージキャラクターとして作成した新たなデザイン。（2019年1月発表）

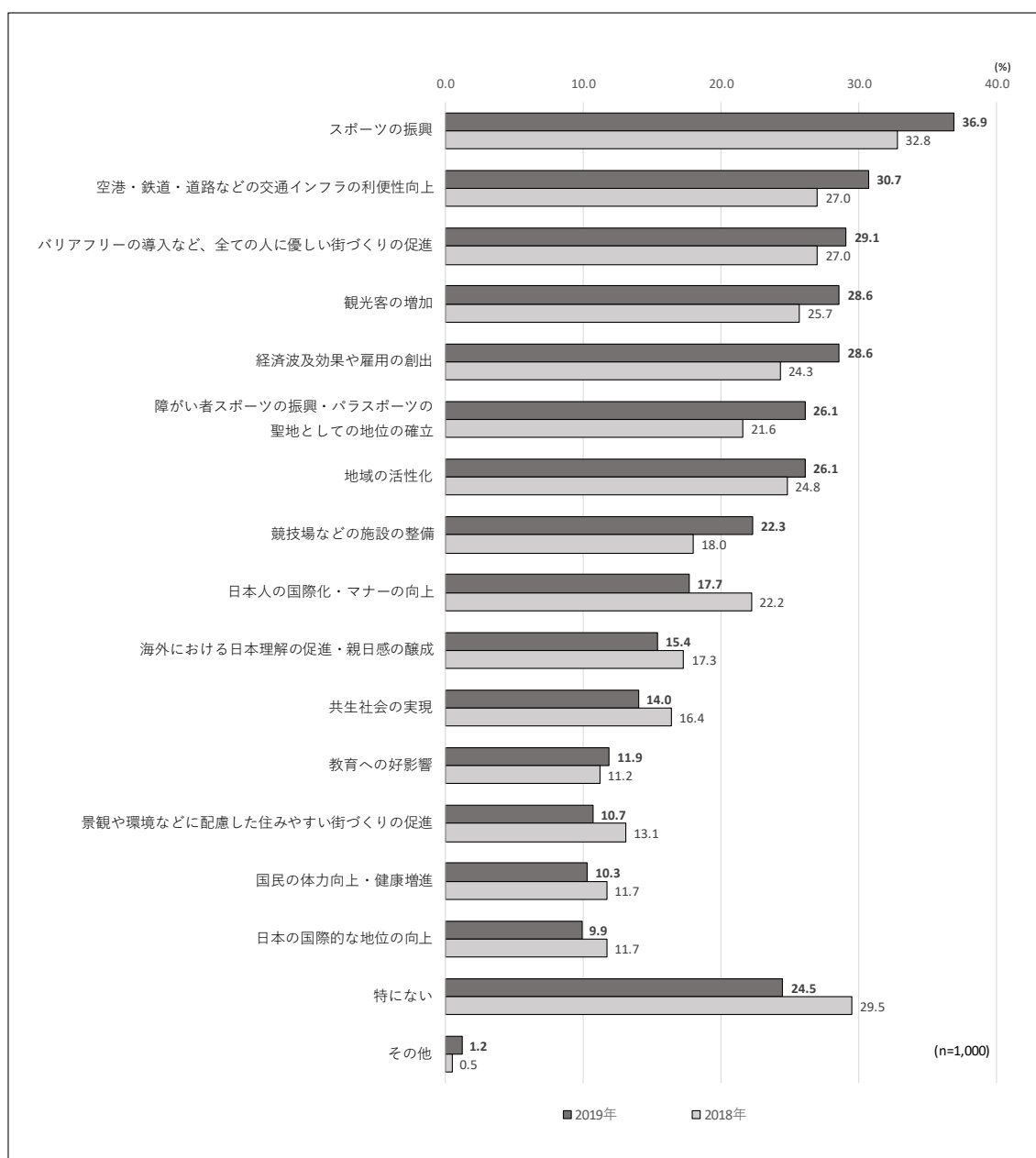
⑦ オリ・パラ開催後に期待する効果（レガシー）

オリ・パラ開催後に期待する効果を見ると、「スポーツの振興」（36.9%）が最も多く、「空港・鉄道・道路などの交通インフラの利便性向上（30.7%）」、「バリアフリーの導入など、全ての人に優しい街づくりの促進」（29.1%）、「観光客の増加」（28.6%）、「経済波及効果や雇用の創出」（28.6%）が続いた。

一方で、「特にない」と回答した先も2割強（24.5%）を占めた。

上位の回答項目は、前年との比較でも支持率を増やした。

図表 12 オリ・パラ開催後に期待する効果（レガシー）



以上